



平成 28 年熊本地震からの復興

木村 正之 一般社団法人日本エレクトロヒートセンター 理事

平成 28 年 4 月 14 日 21 時 26 分、熊本県熊本地方を震央とする震源の深さ 11 km、マグニチュード (Mj) 6.5 の地震 (前震) が発生し、同県の益城町で震度 7 を観測した。その 28 時間後の 4 月 16 日 1 時 25 分には、同じく熊本県熊本地方を震央とする震源の深さ 12 km、Mj7.3 の地震 (本震) が発生し、西原村と益城町で震度 7 を観測した。Mj7.3 は 1995 年 (平成 7 年) に発生した兵庫県南部地震 (阪神・淡路大震災) と同規模の大地震である。

マグニチュード 6.5 以上の地震の後にさらに大きな地震が発生するのは、地震の観測が日本において開始された 1885 年 (明治 18 年) 以降で初めてのケースであり、また一連の地震活動において震度 7 が 2 回観測されるのは、1996 年に現在の気象庁震度階級が制定後初めてのことであった。

この地震による人的な被害は関連死も含めると 262 名、避難者は最大 18 万人を超えた。建物の被害は一部破損まで含めると 20 万戸以上、更にライフライン関連では、電気が最大 48 万戸停電、水道が最大 44 万戸断水、都市ガスが最大 10 万戸供給停止となった。阿蘇大橋の崩落やシンボルでもある熊本城天守閣の瓦がほとんど落下した状況を報道でご覧になり記憶も鮮明ではなかろうか。

地震発生から間もなく 3 年を迎えようとしており、徐々に復興も進んではきているが、まだ途半ばといった状況で、仮設住宅等で生活されている方は未だ 3 万人を超えている (2018 年 3 月時点)。熊本城は天守閣を最優先して復旧に着手されているものの、城門や石垣などを含む完全復旧完了は 20 年後の 2038 年度の予定となっている。

そのような中、震度 7 を 2 回観測した益城町の学校給食センターがオール電化で、この春、再スタートを切ろうとしている。被災した給食センターは、建物に亀裂が入り、また調理設備や給排水設備などが壊滅的な状況に陥ったため、給食再開の目途は全くたたなかった。震災から約一か月後に再開された給食は「パンと牛乳だけ」という状況であったが、隣接する他市町の協力により約一年ぶりに温かい給食が提供された。子供たちには笑顔が溢れ、歓喜の声があがったそうである。

そして、今回、「平時は『食で子供たちの笑顔をつくる給食センター』、緊急時は『被災者を助ける給食センター』」をコンセプトに益城町学校給食センターが再建され、毎日温かい給食を安全に、そして安心して提供できる体制が整うことになった。

当社も地元九州に根差す企業として、電気を通じて、これからも子供たちの笑顔が絶えない世の中の実現の一助になれることを願っている。

去年は、西日本豪雨、台風 21 号、さらには北海道胆振東部地震と大きな災害が発生した。被災された方々に心からお見舞い申し上げるとともに、復興に尽力されている皆さまの安全をお祈りしたい。

最後に、震災当時、「がまだせ 熊本」という言葉をお聞きになった方もいらっしゃるのではないだろうか。熊本出身の私にとって、「がまだせ」は熊本の方言で「働け」の意味で使っていた。「被災者に働け」というのは非常に違和感があったが、現在では「頑張れ」の意味でも使用されているとのこと。

「がまだせ！！熊本」

(きむら まさゆき) 九州電力株式会社 エネルギーサービス事業統括本部 営業本部 営業業務部長